

## 【別紙1-1】 2026年度・KESエコロジカルネットワークの取組み

### 希少植物の生息域外保全活動で栽培に取り組む植物

- \*下記のA、B、C、D、J、Lの6種の中から希望する種を選択できます（複数可）。ただし、C、D、J、Lの4種については、セット数（苗数）に限りがあるため、各種につき1団体3セットまでとし、申し込み順に締め切ります。
- \*2026年度の新規としては、E、オミナエシ、F、カワラナデシコ、G、アヤメ、H、ワレモコウ、I、クリンソウ、K、タムラソウ、M、イワギボウシを扱いません。ただし、E、F、G、H、I、K、Mについても、2025年度までに栽培を始めたものであれば、2026年度での継続栽培とすることができます。
- \*事業所内に緑化できる場所がある場合、適期にその場所に移植し栽培することも可とします。
- \*社内・社外での啓発・広報に努めましょう。
- \*植物の株は、すべて、京都市及びその周辺の産地に由来するものです。栽培セット（苗）の経費は、これらを含む京都ゆかりの希少植物の保全のための事業に活用しています。
- \*各植物の「活用」の方法は、各団体と調整のうえお知らせします。野生復帰（かつての自生地への再導入）に活用させていただく場合もあります。
- \*栽培指導協力：公益財団法人京都市都市緑化協会、一般財団法人葵プロジェクト

#### A フタバアオイ（ウマノスズクサ科 多年草）



1400年続く葵祭（賀茂祭）に欠かせない植物です。環境省・京都府のレッドリストに記載はありませんが、環境の変化で激減しています。日本固有種。

ハート形の葉が特徴で、双葉の間に、小さな赤い花が下向きに目立たないように咲きます。『源氏物語』にも登場します。一般財団法人葵プロジェクト（上賀茂神社内）などによって保全繁殖が図られています。

環境省／京都府レッドリスト：記載なし  
（ただし、京都府内では生息地減少）

- ◆**育て方**：木かげ、軒下などの半日陰。乾燥や強い日射を嫌います。明るい室内でも栽培可能。
- ◆**花期**：3月～5月
- ◆**活用**：希望する事業者は、上賀茂神社に株を返納（里帰り）していただく、「葵祭」で使われます。
- ◆**栽培セットの経費**：  
3株＋容器等 5,500円

#### B フジバカマ（キク科 多年草）



『源氏物語』にも登場する秋の七草の一つで、水田の畔、河川敷など水辺に育つ植物です。自生地の減少により府内ではほとんど見られなくなりましたが、1998年に京都市で見つかりました。

一般に流通しているのはこれとは別種です。乾燥させた葉・莖は香料となり、古代の人々が身に着けました。海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好み訪花することでも知られます。各地の保全団体が栽培保全に取り組んでいます。

環境省レッドリスト：準絶滅危惧（NT）  
京都府レッドリスト：絶滅寸前種

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。夏場は水を十分にやります。風通しに注意します。
- ◆**花期**：（1年目）9月下旬～10月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：  
5株＋容器等 5,500円

### C ヒオウギ (アヤメ科 多年草)



鮮やかな朱色の花が祇園祭に合わせるように咲き、厄除け・魔除けとして山鉾町などに飾られます。葉の形がヒノキの薄板を重ねた檜扇に似ていることが名の由来とされます。タネは漆黒で、「ぬばたま」「うばたま」の別名があります。府レッドリストでは準絶滅危惧種(2015)から絶滅寸前種(2022)に2ランクアップしました。一般にはこれより背が低い変種(ダルマヒオウギ)の系統が流通しています。

環境省レッドリスト：記載なし

京都府レッドリスト：絶滅寸前種

◆**育て方**：日当たりを好みます。比較的乾燥にも強い。

◆**花期**：7月中旬～9月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

3芽(3株相当)+容器等 3,800円

\*30セット限定です。

### D キクタニギク (キク科 多年草)



京都の東山を流れる菊溪(菊谷川)の近くに、かつて自生していたことが和名の由来です(別名アワコガネギク)。江戸時代まで、菊溪の周辺は全国から多くの著名な文人たちが訪れるキクの名所でした。現在は環境の変化で自生は確認できません。

明るい葉色で、最晩秋に小さな明るい黄色の花を多数咲かせます。若い葉に芳香があります。

環境省レッドリスト：準絶滅危惧(NT)

京都府レッドリスト：絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりを好みます。風通しに注意します。

◆**花期**：11月～12月上旬

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。また、京都伝統文化の森推進協議会の「キクタニギクの咲く菊溪の森づくり」(東山区)に育てた株を活用しています。

◆**栽培セットの経費**：

3株+容器等 4,200円

\*30セット限定です。

### J ノカンゾウ (ススキノキ科またはワスレグサ科 多年草)



7～8月にユリに似た大きな橙～赤色の一重の花を咲かせます。近縁のヤブカンゾウ(八重咲きの帰化植物)などとともに、多くの変種や栽培品種を含むヘメロカリス(ワスレグサ属)の仲間です。

若芽や花は山菜に、つぼみや根は薬用にされました。「忘れ草」の名で古くから親しまれ、植えたり身につけると憂さや人恋しさを忘れられると信じられて文芸にも数多く登場します。

環境省レッドデータブック：記載なし

京都府レッドデータブック：絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりが良く、湿気のある土を好みます。夏場は鉢皿などで水を切らさないようにします。3年に一度は植替えをします。

◆**花期**：7月～8月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

2株+容器等 3,600円

\*30セット限定です。

### L ノハナショウブ (アヤメ科 多年草)



古くから多数の品種が作出されてきたハナショウブに対する野生の原種としてノハナショウブと呼びます。花色(濃紫・淡紫・赤紫・白)などの変異が品種改良に利用されてきました。近縁のアヤメ、カキツバタと姿が似ていますが、花の模様や葉の脈などで区別できます。花期はアヤメ、カキツバタの少し後で、花が咲くと梅雨が真近です。

自生する湿原などが消失し、希少になっています。『源氏物語』などにも登場。

環境省レッドデータブック：記載なし

京都府レッドデータブック：準絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりが良く、湿気のある土を好みます。夏場は鉢皿などで水を切らさないようにします。2～3年に一度は植替えをします。

◆**花期**：5月～6月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

2株+容器等 3,600円

\*30セット限定です。